

## 将来の原子燃料サイクルに関する共同声明

### 序文

日本の電力会社を株主とする日本原燃及びアレバ社は六ヶ所村における使用済燃料リサイクルの、早期の安全な運転を確実なものとするために、また日本の原子力産業に対する長期的で持続的な寄与を確実なものとするために互いに協力することが有益であるということに合意した。

アレバ社は、ラ・アーク再処理工場及びメロックス MOX 燃料製造工場における長年にわたる安全かつ安定な操業運転を通して、再処理プラント及び MOX 燃料製造プラントを適切に管理する豊富な技術的知見及び経験を蓄積し、保有している。

10 年以上にわたるアレバ社の技術支援並びに今日までに得られた豊富な技術的知見及びノウハウにより、日本原燃は六ヶ所再処理工場の安全かつ安定的な操業運転に必要な十分な技術基盤を有している。このことは先日、良好な試験結果が得られたガラス固化施設を含め、過去数年にわたり行われた試験運転により証明されている。

また、日本原燃が建設中である MOX 燃料工場の竣工及び操業を推進することも、日本における原子燃料サイクルの実現のために必要なことである。

将来の原子燃料サイクルの発展のためには、継続的にプラントの安全性・経済性を向上する努力を続けることが必須であり、また新たなビジネス展開の可能性を探ることも必要である。

以上のことを踏まえ、今後の協力は以下の分野を網羅する：

### 1.六ヶ所再処理工場

日本原燃とアレバ社は六ヶ所再処理工場の営業運転開始に備え同工場の全ての施設（過去の技術移転契約でカバーされていた施設のみならず、高レベル廃液をガラス固化する施設を含む全ての施設）に対し協力する。これにはアクティブ試験への協力、営業運転前の施設準備体制、営業運転の円滑な開始、再処理の処理量向上、工場運営の最適化を含むが、これだけに限るものではない。

### 2.ガラス固化技術

日本原燃とアレバ社はガラス固化施設の効率的な運転が行われるよう、日本原燃の必要な全ての検討に対し協力する。これには追加 R&D、保守要領、廃棄物管理、生産の最適化を含むが、これだけに限るものではない。

日本原燃とアレバ社は使用済燃料のより効率的な再処理に対応するため、将来的なガラス固化技術の協議も続ける。

### 3.MOX燃料工場

アレバ社は MOX 燃料工場の建設及び運転開始に対し、日本原燃を支援する。これにはメロックスの経験の共有、必要とされる安全解析の情報提供、及び試験、運転開始段階での支援を含むが、これに限らない。

### 4.使用済燃料リサイクル施設の安全性向上

日本原燃とアレバ社は六ヶ所再処理工場及びラ・アーク再処理工場における安全性向上に関する情報を共有する。安全性向上に関する定期相互レビューを実施し、お互いの工場の改善に役立て、安全基準の構築に寄与する。

原子燃料サイクル施設に適用される国際基準への適合性について、相互レビューを行う。本レビューにおいてはシビアアクシデントに達するまでの時間余裕といった再処理施設の特性を考慮することが重要である。

原子燃料サイクル事業を推進するリーダーとして、アレバ社と日本原燃はプラントの安全性の改善に向けた取り組みを継続的に実施するとともに、産業全体の良好事例を発展させる努力を行う。

### 5.日本原燃とアレバ社の使用済燃料リサイクル分野における戦略的協調

日本原燃とアレバ社は、六ヶ所再処理工場とラ・アーク再処理工場間の戦略的協力体制強化に向け、協議を開始するものとする。

この協力には、本共同声明の概念に合致し、共通の利益となる研究開発プロジェクトが含まれる。これらのプロジェクトは、適宜、他の研究機関も入れて実施される。

また、これには双方にとって共通の利益となる新ビジネスの展開に向けた共同歩調も含まれる。